

主体的に学習に取り組む児童の育成 ～ICT機器を活用した授業づくりを通して～

第4回研究全体会（第三回研究授業）

生活科 単元名「町のきらりを見つけにいこう」

日時 令和3年11月22日（水）
研究授業 （2-3）生活
指導者 網野 愛美 主任教諭

主体的に学習に取り組む姿（低学年分科会）

学んだことを活かして、最後まであきらめずに課題を解決しようとする児童

2年生は、田端の町のよさを「きらり」と名付け、探検したときに見つけた「きらり」を伝え合う学習をしました。子供達は、町探検で見付けてきたお店の発見したこと、聞いてみたこと、びっくりしたこと、すごいと思ったことなどを、写真や自分の言葉で友達に伝えます。これらの活動を通して「もっと知りたい」「また行ってみたい」という「主体的に学習に取り組む姿」へつなげることをねらいとしました。



「豆腐屋さんは、朝早くから起きているって言っていたよ」「“げんてい”って書いてあるよ、食べてみたいな。」

「八百屋さんは、新鮮でおいしいままでお客さんに買ってもらえるように工夫しているんだって」「魚屋さんと同じことを言っていたよ。生きている魚もいたよ。」



子供たちは、
「2人ではたらくのは大変じゃないのかな？」
「こんど行ったらお店の人に聞いてみたいな。」
「大福のしゅるいが分かるように、一つ一つシールを貼っているなんてすごく『きらり』だな。」
など、今日の話し合いを振り返っていました。
また、子供たちは、友達の話に興味をもって話を聞き、積極的に自分の気づきを発言していました。対話によって、気づきの質が高まっていくことを実感する授業でした。